

ご卒業おめでとうございます ~それぞれの思いを胸に。心新たにさあ飛び立て!~

私たちがの高校生活が今、終わろうとしています。思い返してみると、少しの不安と大きな希望を胸に本校に入学したあの頃から、日々の学業や部活動はもちろん、文化祭や体育祭などの自治会行事、各種部活動の大会や遠征、模試そして受験と多忙な日々を過ごしてきました。これらを通してクラスや部活の仲間たちと作ってきた思い出は、どれも濃く、語るに尽きません。思い出の中にはいつまでもたくさんの仲間がいました。楽しいことは分かちあひ、辛いことは協力する。そやうやって私は決して楽しいことばかりでは無かったこの高校生活を乗り越え、この場所までたどり着けたのだと思います。辛いとき自分を支えてくれる誰かの存在は当たり前前のものでなくかけがえのない財産です。良い仲間たちに囲まれ、私の三年間は幸せでした。

現在、社会にはかつてない不安が渦巻いています。新型コロナウイルスの止まらない感染拡大をはじめとした現在進行中の問題にと

終わり、冷たい風の中にも日差しの暖かさを感じられる春がやってきました。この良き日に、かくも盛大に私たちの卒業式を挙行頂き誠にありがとうございます。またご多忙の中にも関わらずご出席いただき、あたたかな激励をいただきました。来賓の皆様、校長先生をはじめ先生方、そして在校生代表の方に、卒業生一同、心より感謝申し上げます。

門出の言葉



卒業生代表
岩田 舜平
(小国中出身)

ごまらず、近い将来の南海地震とそれに伴う津波災害、年金負担額の増大など私たちを待ち受ける社会の厳しさは増すばかりです。しかし私たち興讓館生は眼を背けてはいけません。この歴史ある米沢興讓館で受け継がれてきた「興讓の精神」が、日本に留まらず世界までも切り開く一筋の光であると信じています。これまで卒業された先輩方に倣い、私たちも次世代のリーダーとなるよう精一杯努力していく所存です。在校生の皆さん、ここからの一年、あるいは二年間は長いようで本当に短いものです。ぜひ目標をもって日々を過ごし、何事にも本気で取り組んでみてください。そして新たなリーダーを筆頭に私たちを超えていってください。卒業生はいつでも応援しています。

校長先生はじめすべての先生方、三年間の心を尽くしてのご指導、本当にありがとうございます。ありがとうございました。時に叱り、時に励ましていただいたすべてが力になっていることを今感じています。その他すべてのお世話になった方への感謝の気持ちも含め、これからの私の活躍をもって恩返しができるよう精進していきます。



令和3年3月23日発行
第49号
**山形県立
米沢興讓館高等学校**
〒992-1443
山形県米沢市大字笹野1101
TEL 0238-38-4741
FAX 0238-38-2531
<http://www.yonezawakojokan-h.ed.jp/>

最後にになりましたが、本日ご臨席賜りました皆様のご多幸と本校の益々のご発展を祈念いたしまして、私からの門出の言葉といたします。(門出の言葉より一部抜粋)

今年度はコロナウイルス感染防止のため、様々な行事がカット・縮小された一年でした。自治会最大の行事である興讓祭も例外ではなく、一般公開はできませんでしたが、その分、興讓館生のみで行う企画を練り上げ、運営をしてくださいました。全校企画である障害物競走や自由参加の球技大会は、体育祭の代替となる内容で、選手と応援の生徒が一体となって盛り上がり、楽しむことができました。クラス企画の教室装飾は、三年生5クラスのクオリティーの高さに驚くと同時に、高校最後の行事に寄せる熱い思いが私たちにも伝わってきました。制限があったからこそ、一層先輩方の創造性が際立ち、素晴らしい興讓祭となったと思います。できないことをいつまでも不平に思うのではなく、できることを探し、新たな着想と工夫とで今までになかったものを創り出すことの大切さを教わりました。

真新しい制服に身を包み、胸を膨らませて米沢興讓館高校に入学されてから、早や三年の歳月が経とうとしています。今、先輩方はこの学び舎で過ごされた日々を、かけがえのない愛おしいものとして思い起こされていることと思います。



在校生代表 太田 彩
(高畠中出身)

はなむけの言葉

冬の寒さも和らぎ、柔らかな日差しに春の訪れが感じられる今日におめでとうございます。在校生を代表し心よりお祝い申し上げます。

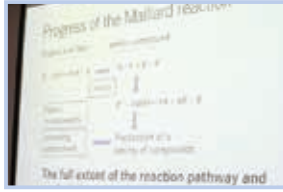
イノベーター育成塾専門研究成果発表会

イノベーター育成塾

二年四組 見保 駿作
(米沢六中出身)

私たちコアスーパーサイエンスクラブ二年生は、本校のSSH事業の一環であるイノベーター育成塾に参加し、塾長の城戸淳二教授による塾長ゼミでのプレゼンテーションや講義、山形大学工学部の研究室に所属してのハイレベルな研究活動などを体験しました。私は多田隈理一郎准教授の研究室に通わせていただき、柔らかいロボットの形状を予測するセンサーを作りました。自分自身で課題を見つけ、大学生にアドバイスをもらいつつ、諦めずに何度も試作して改良し、課題を解決することができました。この貴重な体験で得た「諦めない」という精神や、課題解決に向けて様々なアプローチをしていく姿勢を、今後の受験や大学での研究に生かしていきたいです。

英語で発表!!



東北地区サイエンスコミュニティ～μ粒子の寿命測定～

ハイレベルな研究発表会

二年一組 高梨 美佳
(高畠中出身)

私たちは「μ粒子の寿命測定」というテーマで研究発表をしました。大学教員や多くの高校生に囲まれた中で発表するのは大変緊張しましたが、トラブルなく終わることができました。また、その際に審査員にいただいた講評から研究発表における改善点が見つかりました。

私たちに他に約二十グループほど発表があり、それぞれの研究方法や考察が高校生のレベルを超えているものが多い印象を受けました。また、それらに対する講評も高いレベルになっており私たちの研究にも参考になることが多く勉強になりました。この研究発表会に参加することで、改善点を見つけることや研究における重要なポイントを学ぶことができ貴重な経験となりました。



SSH講演会

考えても変わらない

一年四組 鈴木 悠斗
(赤湯中出身)

今回、株式会社チカク代表取締役の梶原健司さんに「テクノロジーで社会課題を解決する」という演題で企業のことや、成功の秘訣についてご教示いただきました。

お話の中で私が一番重要だと思ったことは、自分が少しでもやりたいと思ったことにはすぐに飛びつくということです。梶原さんはこれを体現して〇から起業し、成功している方なので説得力があるなと感じました。高校生という大切な時期にたくさん経験を積むことが高校卒業後の進路に大きく影響してくると思うので、どんなに小さなことでも挑戦して自分の夢をかなえられるように日々努力していきたいです。



校内探究活動成果発表会

FSの集大成

一年二組 穴戸 里帆
(米沢一中出身)

私たちの班では日本企業における男女格差について、県内企業の見学を通して気づいたことから課題を発見し調査しました。少ない時間の中で一つの課題を解決まで導くのは大変でしたが、実際に企業訪問を通して発見した課題だったため、興味を持ち積極的に取り組むことができました。発表の際には、様々な助言をいただき非常に有意義なものとなりました。また、先輩の研究発表も聞かせていただき、発表の仕方の工夫やポスターの構成の仕方などたくさんの刺激を受けました。今回の活動で得た学びを来年のSSH生がし、よりよい発表ができるように探求心を深めていきたいと思えます。



逆境を超えて 画面の先に広がる世界 つながる未来

台湾師範大学 オンライン交流

「異文化」を理解すること

2年1組 矢久保太惟
(長井南中出身)

私たち探究科は、母国語以外の言語や異文化に触れることなどを目的として海外に出向く予定でしたが、コロナの影響で、実際に行くことは出来ず、オンラインで、国立台湾師範大学附属高級中学と交流を重ねてきました。その中で、色々な学びがあり、中でも大きな気づきとなったのは、異文化の偉大さです。特に「時間」という概念について、こんなにも大きく価値観に違いがあるのかと驚きました。また、思っていることを英語で伝えることも難しく、とても大変でした。今回の台湾との交流を通して、自分たちの視野の狭さを感じることができました。コロナが収束したら、台湾の友達に会いに行きたいと思います。



STF オンライン交流

5000キロ先が 画面の向こうに

2年2組 清澤 凜一
(高畠中出身)

僕たち国際探究科2年生は、新型コロナウイルスの影響で中止となった海外研修の代替活動として、マレーシアの学校・STFとのオンライン交流を行いました。

文化や宗教が全く異なる国の見知らぬ人と最初から英語で会話をするという難しい活動でしたが、STFの生徒たちはとても親しみやすく、交流を重ねていく内に英語での会話にも慣れることができました。互いの国について質問する中で、マレーシアの文化への理解が深まっただけでなく、自分たちの文化を見直すきっかけにもなりました。

直接の交流ができなかったことは残念でしたが、今だからこそできる貴重な体験だったと思います。

今年もこの季節が やってきた!

スキー授業



未来を掴め!
3年生

大学入試共通テスト 激励会

踏み出す勇氣

三年一組 鈴木悠世
(宮内中出身)

進路決定の第一歩となるだけでなく、新テストへの変更や新型コロナウイルス感染拡大という大きな不安を抱えて迎えた共通テスト前日。激励会では、先生方の激励メッセージや歌、応援団のコール、代表生徒の決意表明、更には離任された先生方にも激励していただき、勇氣をもって受験する気持ちになりました。

私たちは周りの方々に支えられ、応援していただけているからこそ、努力することができます。まだまだ受験は終わりません。これからも周囲への感謝を忘れず、踏み出す勇氣と少しの余裕を持って、各々の目指す進路の実現に向け尽力していきます。



興讓館生のがんばり

夢の舞台で

フェンシング部 二年五組 和泉 希首 (米沢二中出身)

私たちは、北海道、東北予選で全国大会への切符を手にすることができました。三月二十八日から三日間、大阪府で開催される全国大会では、1試合でも多く勝てるよう、全力を尽くしたいと思います。新型コロナウイルスの影響で、全国大会の開催が危ぶまれていましたが、感染防止対策をしっかりと行う上で開催できました。

きることを、本当に嬉しく思います。顧問の先生方や、家族、チームメイト、応援してくださる全ての方への感謝の気持ちを忘れず、チーム一丸となって臨みたいと思います。去年中止になってしまった全国大会、今年は悔いの残らぬよう、精一杯頑張ります。ご声援よろしく願っています。

部活動でも大奮闘!



一年ぶりの全国大会

スキー部 一年五組 落合 創太 (米沢四中出身)



私はコロナ禍でインギユラーな状況での開催となる今年のインターハイに出場することになりました。目標は入賞である十位以内に入る事です。例年だと夏や初冬にも大会があったのが、今年は大会が中止となっていたため、今回は約一年ぶりの全国規模の大会となります。

オフシーズンは自分の一番の課題であった脚力や体幹の弱さにフォーカスして平日は陸上トレーニング、週末は蔵王のジャンプ台に通い練習に取り組みました。中学の頃とは違い、スキー部があったのでとても良い環境で練習する事ができました。

私がこの大会に出場するのにはたくさんの方々のご協力がある事を忘れずに精一杯頑張ります。